令和７年度小平市立上宿小学校　～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

全ての領域で全国平均より高い。東京都平均と比べ「話すこと・聞くこと」の領域において正答率が 1.8 ポイント低い。「書くこと」の領域において正答率が 3.5 ポイント高い。「読むこと」領域において正答率がより 2.3 ポイント高い。「話すこと・聞くこと」の領域において「【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する」問題で全国平均より 2.2 ポイント低く、「【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する」問題で 1.6 ポイント低い。

課題

「話すこと・聞くこと」の領域において目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討すること、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることの力を高めていく必要がある。

学年別漢字配当表における漢字については、おおむね定着しているが、確実に定着しているとは言い難く、漢字を文の中で正しく使うことができる力を高める必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

自分の思いや考えを伝え合う学習の際に、目的や意図が何であるかを考えた上で学習に臨ませるようにする。話されていることを簡潔にメモを取り、後で自分なりにまとめる機会を多く設け、内容を理解できるようにしていく。漢字の定着については、家庭学習を充実するとともに、単に漢字の字形を覚えるのではなく文章の中で正しく使うことを意識させる指導も併せて行う。

【算数】　状況の分析

「図形」の領域において正答率が全国平均より 6.7 ポイント、東京都平均より 11.7 ポイント低い。その他の領域では、全国平均正答率より高いものの東京都平均正答率比べ「数と計算」領域にでは 1.3 ポイント、「測定」領域では 0.9 ポイント、「変化と関係」の領域では 1.7 ポイント、「データの活用」の領域では 2.9 ポイント低い。特に全国や東京都平均と比べ、正答率が低い問題は、「示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ」問題、「方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ」問題、「五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形でに分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く」問題で、5～12 ポイント低い。

課題

図形の性質を基に、コンパス等を用いて作図すること、図形の意味や性質について理解すること、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することなどの力を高めていく必要がある。

その他の領域についても、正答率を向上するためには既習事項の定着が不十分であり、問題を解く際にどの既習事項を活用すると解答を導くことができるのかを考える力を育んでいくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

２学期から算数の授業を改善するにあたって習熟の時間を確保し、学んだことの定着を図る。また、算数的活動を充実させ、実際に作図に取り組んだり、図形を手に取って触れる活動を行ったりする時間を確保する。学習者用端末を活用した学習を推進する一方で、具体物を用いた活動の両方を授業の中に取り入れる。また、今まで以上に既習事項の確実な定着を図るために、学習の理解度に応じた課題を出すことで個別最適な学びとなるように取り組む。

【理科】　状況の分析

「「エネルギー」を柱とする領域」において正答率が全国平均より 5.4 ポイント低い。「「粒子」を柱とする領域」において正答率が全国平均より 1.4 ポイント低い。「「生命」を柱とする領域」において正答率が全国平均より 10.7 ポイント低かった。また、問題の形式において見ていくと選択式、短答式の形式において全国平均より 3～5 ポイント下回る結果となっていた。

特に全国や東京都平均と比べ、正答率が低い問題は、「乾電池２個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ」問題で 18.1 ポイント、「ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ」問題で 23.9 ポイント、「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだす」問題について書く問題で 8.2 ポイント低い。

課題

乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識、顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能、レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することの力を高めていくことが必要である。

実験や観察を行う際に予想をしっかりと考えさせ、仮説をもって実験や観察の方法を主体的に考えさせるとともに実験後、十分に考察させまとめていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

２学期から理科の授業を改善するにあたって実験や観察を行う際に予想をしっかりと考えさせ、仮説をもって実験や観察の方法を主体的に考えさせた上で実験を行う。実験後、十分に考察させ、まとめていく学習のプロセスを再度、確認して授業を行っていく。実験や観察といった体験を重要視して授業を構築することを大切にしながら、学習者用端末を活用した考えの交流や共有する時間を授業内に確実に位置づけ、理解度に応じた習熟の課題を出すことで個別最適な学びとなるように取り組む。

【質問紙】　　状況の分析

肯定的回答が全国平均より 7 ポイント以上低かった項目が 17 項目あった。

【全体に関わる項目】

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」で 8.1 ポイント、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」で 7.2 ポイント、「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」で 7.7 ポイント、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」で 7.8 ポイント、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」で 8.6 ポイント、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」で 7.5 ポイント、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」で 8.2 ポイント下回っていた。

【国語に関する項目】

「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか」で 15.1 ポイント、「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか」で 8.9 ポイント、「国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか」で 8.3 ポイント下回っていた。

【算数に関する項目】

「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」で 7.3 ポイント下回っていた。

【理科に関する項目】

「理科の勉強は得意ですか」で 11.7 ポイント、「理科の勉強は好きですか」で 9.2 ポイント、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」で 11.3 ポイント、「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」で 11.1 ポイント、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」で 14.7 ポイント、「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」で 7.1 ポイント、「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」で 11.4 ポイント下回っていた。

課題

質問紙の結果を受け、課題を全体に関するものと国語・算数に関するものの２点に分ける。

１　全体に関する項目

こどもたちの実態を十分に把握するとともに相談しやすい風土を作っていく必要がある。

授業においては、体験を伴った活動を取り入れるとともに目的意識を高め、実生活を想起する指導を行う。また、自ら考え、友達と共有する時間を確保する必要がある。

授業やテストにおいて振り返りの時間を充実させ、学習における理解度を高めることや次の学習にスムーズにつなぐことができるように個別指導を行う必要がある。

テスト時間については、時間が足りていないとの回答が多く見られたため、問題の形式に慣れ、スムーズに問題に取り組むことができるようにしていく必要がある。

２　国語・算数・理科に関する項目

【国語】

授業において、児童の学習状況を把握し、つまずきを見付け、どのようにすれば解決できるのかを丁寧に指導する必要がある。目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書くことができるよう、自分の考えを整理するツールとして何を活用していくことが大切になるのかを指導する必要がある。また、文章を読解する際に、文章と図表を結び付けて考えることができるように指導する必要がある。

【算数】

問題を解決する際に粘り強く取り組むことができるように学習過程を大切にし、友達の考え方と自分の考え方について比較検討する時間を確保する必要がある。

【理科】

理科を学ぶ意義や目的を児童が感じながら学習に取り組んでいく必要がある。また、学習のプロセス（予想・仮説→実験・観察→考察→まとめ→振り返り）を理解させた上で学習を進めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

学校生活において教師は児童たちの状況を把握し、良いところを積極的に称賛し認めていくことを継続して行うとともにこどもたちが教員に相談できるような雰囲気づくりを行う。２学期は授業、学校行事等で目的意識を高めるため、こどもたち一人一人がめあてをもつことができるよう指導をする。また、授業では主体的・協働的な学びとなるよう自分の考えをもたせる時間や、様々な考えを比較検討する時間を確保するとともに ICT 機器を効果的に活用した授業を行う。テストの振り返りの際に分からないところがある場合は、個別指導を取り入れながら指導に当たる。

９月より、教員の授業力向上のための 0JT 研修として指導法に関する内容を取り入れる。また、教員相互に授業参観を行い、授業力向上を目指す。